

参考資料：米国獣医内科学専門医（腫瘍学）までの流れ

～実体験をもとにした米国の獣医専門医制度の概要～

米国獣医内科学専門医（腫瘍学）
日本獣医生命科学大学非常勤講師
日本小動物がんセンター センター長
小林哲也

1951年、獣医病理学を筆頭に米国獣医専門医制度が発足した。その後、獣医放射線学（1966年）、獣医外科学（1967年）に続き、1972年に獣医内科学の専門医制度が設立され、現在数多くの専門医が北米および欧州を中心に活躍している。また、米国獣医内科学会は一般内科、腫瘍科、循環器科、神経科の4つの分科会に細分されており、2011年5月現在、一般内科1088人、腫瘍科226人、循環器科168人、神経科161人の専門医が登録されている。

レジデントとは？

「レジデント (Resident)」を直訳すれば「研修医」という訳語が存在するが、訳語で得られる日本語のニュアンスと実際のレジデントの仕事内容は随分異なるように思える。レジデントとはインターンを修了した後、専門医になるための専門教育を受けている専門研修医のことを指す。その教育内容は各分科会によって様々であるが、学会で認定されている大学教育病院や専門医の常駐する病院で3年間、徹底した専門教育を受けることになる。「レジデント」という単語の訳語には「常駐している、居住する」という意味もあるが、まさに病院に住み込みで診療している獣医師というイメージが最も実情に近いと思う。

米国ノースカロライナ州立獣医科大学腫瘍科を例に挙げると、各レジデントが直接的および間接的に担当する症例数は3年間で数千症例に及ぶため、一般開業獣医師が一生かけて経験するような腫瘍症例を短期間で経験することになる。レジデントの立場は、学生およびインターンと大学教官の中間に位置し、各科を訪れる症例の大部分を実際に担当するのはレジデントである。

レジデントは日々どのような仕事をしているのか？

ノースカロライナ州立獣医科大学腫瘍科には、通常2～3名のレジデントが在籍しており、1日1～2症例の初診、3～6症例の継続患者、4～6症例の放射線治療患者を各レジデントが担当している。

「担当する」という言葉通り、主治医としての治療方針の決定権は全てレジデントにあり、大学教官はレジデントが間違った方向に進んでいないかということに肩越しに監督しているだけである。また、学生やインターンなどの指導もレジデントの重要な仕事の一つである。さらに、レジデントは各種セミナーやラウンド（少人数性の対話式講義）など、年間を通じ相当数の教育活動にも従事しなければならない。その一方で、レジデントにはオフクリニック (Off Clinic) と呼ばれるデスクワーク期間が年間1ヵ月程度与えられ、研究活動、各種セミナーや学会発表の準備、症例の追跡調査、論文執筆と常に多忙を極める。

レジデント課程に進む前に必要なこと

獣医大学卒業直後に簡単にレジデント過程に進める訳ではない。まずは、1年間のインターンシップを指定病院で経験するか、最低2～3年以上の一般臨床経験を積まなければレジデント課程に申し込むことすらできない。インターンを経験すると知識と経験が短期間で身につくだけでなく、レジデントプログラムに申し込む権利が与えられるため、インターンシップは常に人気の高いプログラムである。とりわけ大学のインターンシップは人気が高く、各大学のトップ5%の成績優秀者に与えられるエリート養成コースでもある。外国人獣医師もインターンシップに申し込むことは可能であるが、語学の壁を克服した上で米国の優秀な志願者達と競争しなければならない。各大学は毎年5～6名程度のインターンを採用するが、人気のある施設ではその競争率が数十倍となることもある。

腫瘍科レジデント終了後に受ける試験

専門病院におけるレジデント教育の長所の一つは、経験豊富な専門医から直接指導が受けられるだけでなく、その他の分野のエキスパート達からも実践的な助言や手助けを得られることである。そもそも腫瘍学は内科学の一部であり、癌を伴う患者が持病を有することは少なくない。それらの患者の治療を行う際、一般内科の知識を持ち合わせていなければ患者を総合的に診ることができなくなる。一般内科以外の分科会（腫瘍科、神経科、循環器科）でも一般内科学の知識の大切さを十分に認識しており、専門分野の試験を受験する前年に“General Exam”と呼ばれる内科一般試験に合格しなければならない。この試験は年1回、6月に施行される。腫瘍科専門試験も年に1回、2日間（4時間×4科目＝16時間）かけて実施される。腫瘍科専門試験では臨床腫瘍学に対する知識の他、分子生物学、免疫学、放射線物理学、生物統計学など多岐にわたる知識が要求され、筆記試験の他に実施試験も含まれている。専門試験に合格し、定められた書類（一本以上の論文が学術雑誌に掲載される必要がある）を米国獣医内科学会（ACVIM）へ提出すると、獣医内科学専門医（腫瘍学）としての称号を学会から与えられる。